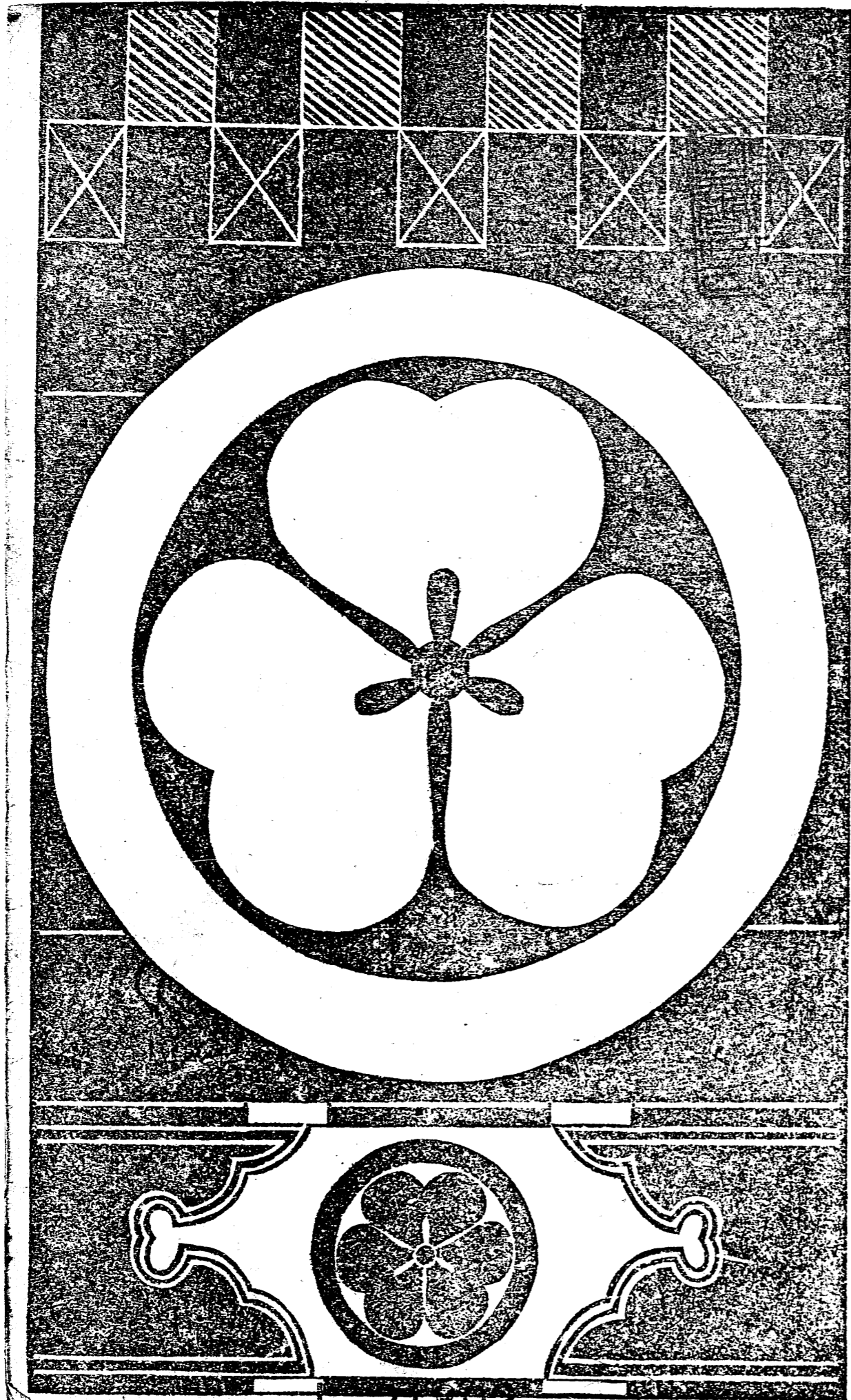


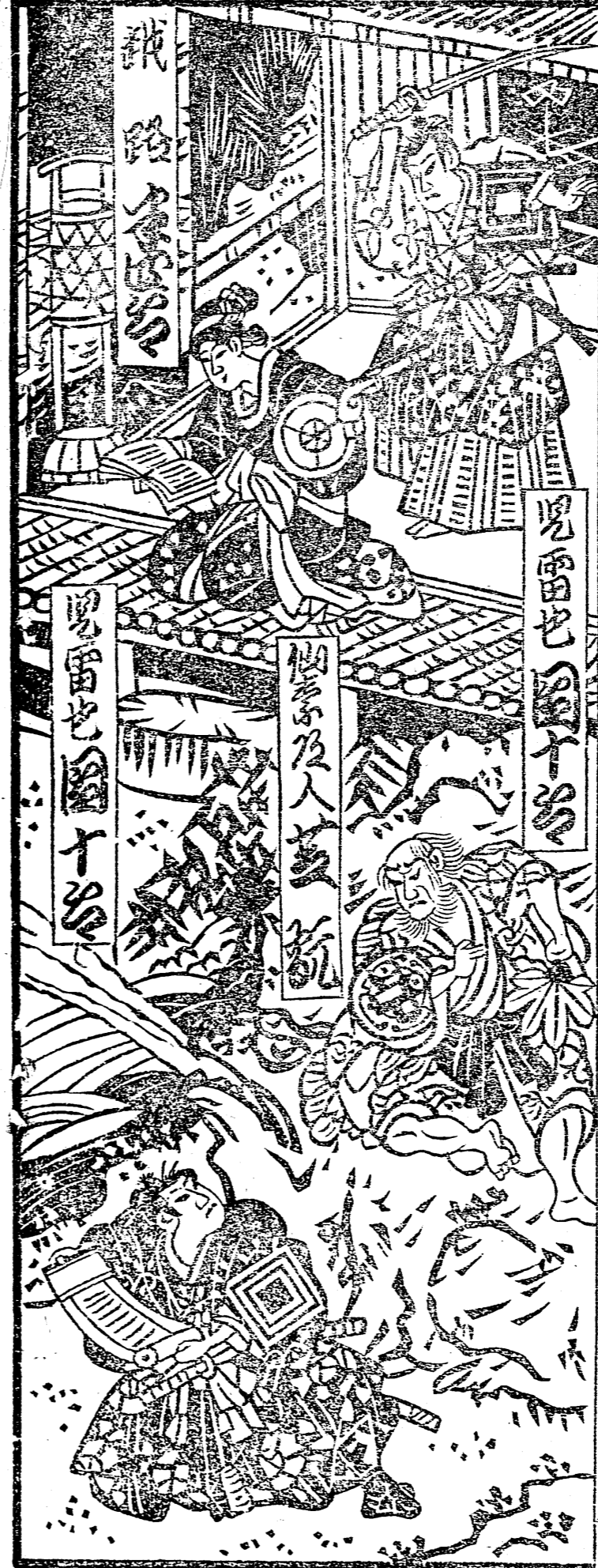
04-021

近世 22.7-04-021



後繪巻元河平藤太郎

L 21802



月明の伏見御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御
 御幸の御見物御

大抵の修景
 御小納言
 御大納言
 御小納言
 御大納言
 御小納言
 御大納言
 御小納言
 御大納言

三月四日 吉原山行儀の傷
 茶師御見物御の傷

長門前の場
八幡の場
白洲塗議所の場
荒後湊利衆の場



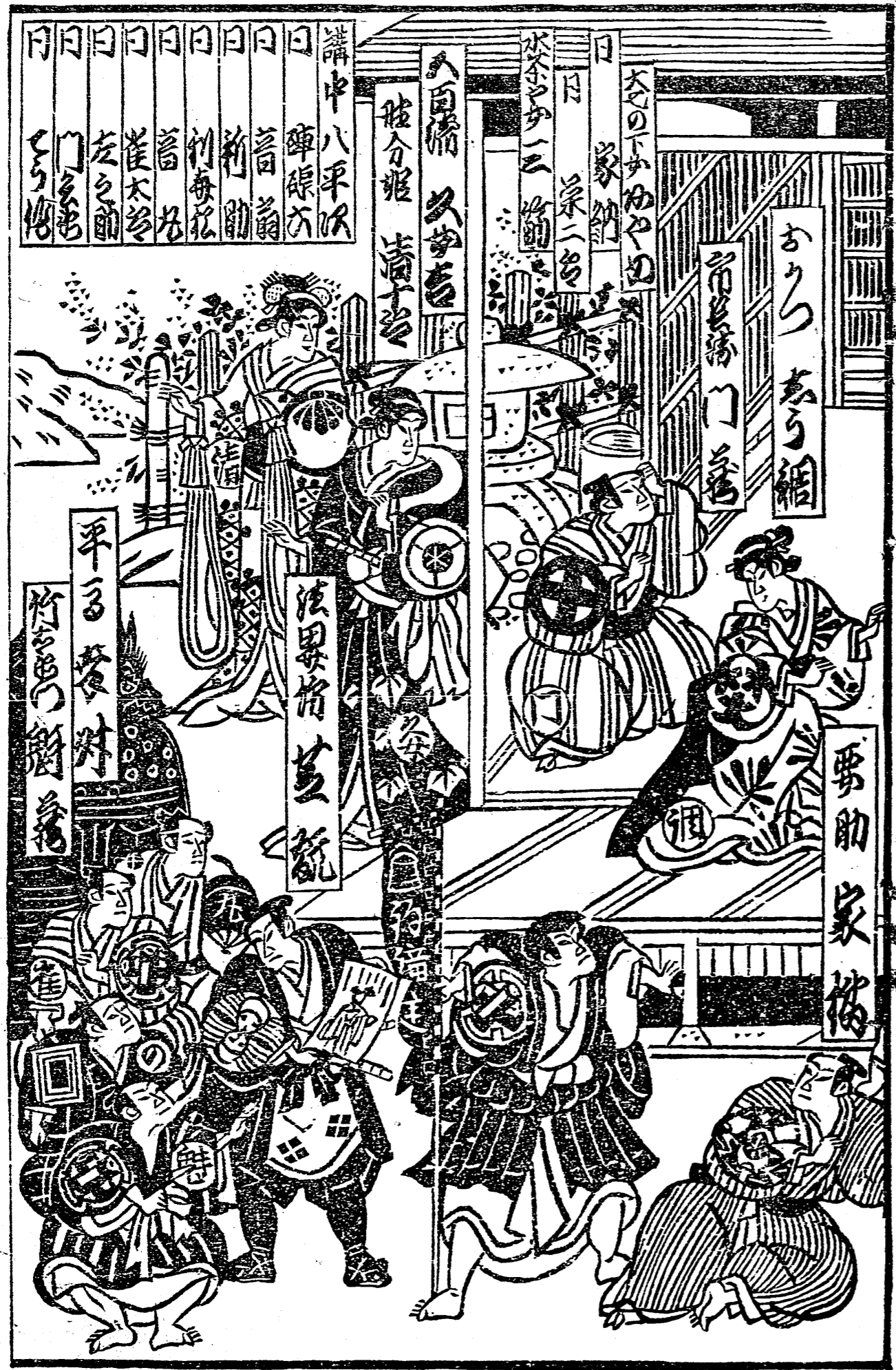


中滿束

高野山の湯

まろ^まの^ろ竹^{たけ}の^の
 湯^ゆ好^{この}く^か
 朱^{あま}の^をて

ど^らの^やつ^のり^のつ^と
湯
 高野山^{たかのやま}ふ^り別^{べつ}の^の湯



講中八平次
陣線六
音前
利毎松
音松
左之助
左之助
左之助

八百橋 久松吉
松介 清十郎

大の下のあやの
家納
栄二多
水全のあやの
水全のあやの

あゆの 志ら細
音松 門 巻

要助 家松

法界指 其 籠

平三 登 対

音松 門 巻



長九郎 田十郎

おきく 福助

源右衛門 田十郎 音松 門 巻

芥子番目 席幕 向一 大七の場

諸代打の節は
元組系方 懸り 懸り 懸り
寺僧の節は
柳代河行の節を懸り
おきく 福助
おきく 福助

備前備後

さしこころのつらさ

三幕



淨時きよときも然さかか
 稻いねもあふふ
 穉ちもあふふ

大切

豊後

か二番目大切相勅かふたばんめ大切あいに

慈あいの 賣うり 淨きよ 稻いね 穉ち

而後仲俊甲
 川東村東村
 園家福志
 十名福前じゅうなふくまへ



法界ほふかいの
 心こころを
 美みす
 統と

かりく福助

吉田松長よしかわたかながの家いへの
 以もて
 物もの

豊田とよたの

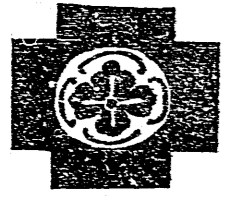


大徳おほとくの
 神かみの
 十じゅう名な

都合くわいごうの
 美みす
 統と

明助あきすけ

常盤とこ洋やう 翁おきな 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 志津しづ 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 小文こぶん 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 豊とよ 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 岸きし 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 千歳ちとせ 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 伊賀いげ 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 平藏へいざう 太夫たふ
 常盤とこ洋やう 佐々木ささき 太夫たふ



一上等後舖 右月 金二円二十入
 一同等高 右月 金二円二十入
 一同等平 右月 金二円二十入

雑者

竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金
 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金
 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金
 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金 竹葉金

他者

明治十年八月二十一日
 午後三時三十分の開始は

他外中等下等共右割合を
 りて當面仕置る之内重下分仕
 余ら之代價一切請ふ事及び

淨瑠璃 竹本富壽太夫

三味線 鶴浜 徳

千鶴子 大々叶

樂屋西條 田中八重子 飯東泰知

新富屋 密知